

羽田ふるさと再生プロジェクト NEWSLETTER No.2

多摩川とびはぜ倶楽部 2023年7月 発行人: 遠見和子/中平繁 Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

私たちとびはぜ倶楽部は「ふるさと再生プロジェクト」と銘打ち、定例会と並行して多摩川でゴミ拾いを行っています。

大師橋干潟周辺には、大雨が降ればすぐゴミが流れ着き、あっという間に大量のゴミが溜まります。

河川敷では、古いゴミが堆積され層になっていて、拾えども拾えどもきりがありません。

このような状況を変え、子ども達が安心・安全に楽しく生きもの観察などができる場所にしようと頑張っています。

みなさまの参加・応援をお待ちしています。(H)

〈水辺のゴミ見つけ!〉に参加開始

全国川ごみネットワークが実施する、河川や海、湖沼や用水路などの水辺の3種類のゴミ(ペットボトル、レジ袋、カップ型飲料容器)の調査への参加を始めました。調査対象のゴミを分別して集めて、個数を数えて報告しています。

調査はまだまだ参加者募集中です。個人でも、1回の調査から参加できます。期間は2023年11月30日(木)まで。詳細は全国川ごみネットワークのホームページをご覧ください。

はじめの1年を終えて



(左)河川敷に不法投棄されたごみ

(右)ごみ撤去後

「羽田ふるさと再生プロジェクト」(以下プロジェクト)は2022.5/15からスタートしました(プロジェクトのみの本格スタートは2022年度の定例観察会終了後10/9から)。1回のゴミ回収量はその時の参加者数にもよりますが、平均120kg、多い時は200kgにもなりました。プロジェクト開始以前から観察会終了後は自然への敬意と感謝をこめて干潟エリアのゴミを集めていましたが、ゴミ回収量は年間250kg位でした。プロジェクトではゴミ回収のみに集中して取り組むことで、1回で観察会の約半年分の量が集まりました。

多くのゴミを集める事で達成感も感じることができ、ゴミの仮置きに使用している倉庫が一杯になり、行政が回収してくれるまでの保管場所に苦慮する事になりました。土手や干潟の近くに仮置き場を作ると、新たな不法投棄をまねく事にもなりかねません。大田区や蒲田清掃事務所、羽田の町会の町会長さんにも現地視察に来てもらい、最終的には国土交通省京浜河川事務所のご協力を得て、それまで集めたゴミとブルーテント廃屋も含むプロジェクト対象エリア内の約110㎡のゴミを2023.2/10から約12日間かけて回収してもらいました。しかし、まだまだ「子供たちが裸足で遊べる干潟」は、遥か遠い”夢物語”と言える現状です。

大師橋干潟のゴミを減らし、多摩川のゴミを減らし、東京湾のゴミを減らし、そしていつの日かきれいな海を取り戻すことができるよう、これからも多摩川を愛する多くの皆様のお力添えをお願いしたいと思います。(N)

みんなでつくる!「多摩川の未来の風景」

エコロジカル・デモクラシー財団さんが、多摩川各地の水辺の風景と活動を紹介する企画展示の第二弾を開催中です。

大師橋干潟で見つけたちょっと気になるごみも、川ごみ箱庭アートとして展示されています。上流から下流まで、それぞれの風景や活動と川ごみアートを照らし合わせて見ながら、川ごみ問題を多摩川全体の問題として考えてみませんか。

【開催会場】ニヶ領せせらぎ館 (登戸駅徒歩8分、入場無料)

【開催期間】7/1(土)~7/30(日)

【休館日】毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、第1・第3水曜日



会場にはたくさんのアート作品が